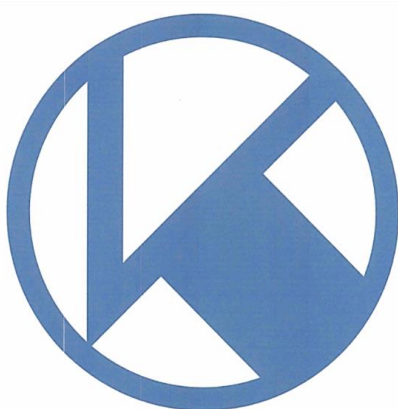


2022年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



メディカルスポーツ
柔道整復学科

2年生

学校法人こおりやま東都学園

メディカルスポーツ柔道整復学科 2022年度生 履修一覧

1年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	人間発達学	
	栄養学	
	情報処理概論	
	医療倫理	●
	運動の科学 I	
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能	解剖学 I	●
	生理学 I	●
	生理学 II	●
疾病と傷害	整形外科学	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	医学史	
	柔道 I	●
基礎柔道整復学	柔道整復学総論	●
	包帯法	●
	柔道整復特論 I	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学 I	●
	物理療法	●
柔道整復実技	スポーツ予防学	
	保存療法	●
	柔道整復実技 I	●
臨床実習	臨床実習 I	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	運動の科学 II	
	解剖学 II	●
人体の構造と機能	解剖学実習	●
	老年学 I	●
	スポーツ生理学	●
	運動学	●
疾病と傷害	一般臨床医学	●
	病理学概論	●
	外科学概論	●
	リハビリテーション概論	●
	柔道整復術の適応	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道 II	●
	公衆衛生学	●
	職業倫理	●
社会保障制度	社会保障制度	●
基礎柔道整復学	柔道整復特論 II	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学 II	●
	臨床柔道整復学 III	●
	臨床柔道整復学 IV	●
柔道整復実技	柔道整復実技 II	●
	柔道整復実技 III	●
	柔道整復実技 IV	●
	老年学 II	●
	臨床実習	臨床実習 II

3年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
人体の構造と機能	生体構造特論	●
	生体機能特論	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道 III	●
	関係法規	●
基礎柔道整復学	基礎柔道整復学セミナー	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学セミナー	●
	臨床的判断(画像理解)	●
柔道整復実技 臨床実習	柔道整復実技セミナー	●
	臨床実習 III	●

1. 基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動の科学Ⅱ		清水 茂幸			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
コーチングの理念と指導法を学び、指導計画やトレーニング方法及びスポーツ傷害予防を習得する。柔道整復師としてのスポーツへ理解を深めることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①グッドコーチに求められる医・科学的知識を習得する。 ②現場・環境に応じたコーチングを学ぶ。 ③スポーツへの理解を深める。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		スキルトレーニング		ペア・グループ
2	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		心のトレーニング①		ペア・グループ
3	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		心のトレーニング②		ペア・グループ
4	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		スポーツに関する医学的知識①		ペア・グループ
5	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		スポーツに関する医学的知識②		ペア・グループ
6	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		スポーツに関する医学的知識③		ペア・グループ
7	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		アンチ・ドーピング		ペア・グループ
8	現場・環境に応じたコーチング		コーチング環境の特徴①		ペア・グループ
9	現場・環境に応じたコーチング		コーチング環境の特徴②		ペア・グループ
10	現場・環境に応じたコーチング		コーチング環境の特徴③		ペア・グループ
11	現場・環境に応じたコーチング		ハイパフォーマンススポーツにおける 今日的なコーチング		ペア・グループ
12	現場・環境に応じたコーチング		スポーツ組織のマネジメント①		ペア・グループ
13	現場・環境に応じたコーチング		スポーツ組織のマネジメント②		ペア・グループ
14	現場・環境に応じたコーチング		障がい者とスポーツ		ペア・グループ
15	まとめ		総復習をし、知識と技術の定着を図る		ペア・グループ
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90%	受講態度 10%
【教科書】	公益財団法人日本スポーツ協会 『Reference Book』				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			予習復習をしっかりと行う。		
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

2. 專門基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学Ⅱ		山本 茂久			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
脈管計、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①脈管系、消化器系、呼吸器系に属する器官の種類、構造と機能を学習する。 ②泌尿器系、生殖器系、内分泌系に属する器官の種類、構造と機能を学習する。 ③国家試験を視野に解剖学について学習する。 ④ ⑤				考え抜く力 問題解決力 知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	脈管系1		脈管系の種類、動静脈の構造		個人
2	脈管系2		心臓の構造と働き、心臓に分布する血管と神経刺激伝導系		個人
3	脈管系3		全身の動脈と静脈、リンパ管の構造と働き		個人
4	消化器系1		消化器の働き		個人
5	消化器系2		口腔腺、歯、舌、咽頭		個人
6	消化器系3		食道、胃、小腸、大腸		個人
7	消化器系4		肝臓と胆嚢、膵臓と腹膜、嚥下		個人
8	呼吸器系1		呼吸器の種類と分類 外鼻、鼻腔と副鼻腔、喉頭、気管と気管支		個人
9	呼吸器系2		肺、胸膜、縦隔		個人
10	泌尿器系1		泌尿器の種類と働き 腎臓の構造と働き		個人
11	泌尿器系2		尿管、膀胱、尿道		個人
12	生殖器系1		胚子の発生		個人
13	生殖器系2		男性生殖器および女性生殖器の構造と働き 子宮粘膜の周期的変化		個人
14	内分泌系1		内分泌系の働き、下垂体		個人
15	内分泌系2		甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、精巣、卵巣、胸腺		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 第2版 (医歯薬出版)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学実習		非常勤講師			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	演習・実習	1
【授業の概要・目的】					
人体について全身的な構造と機能についての知識を学びます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①筋学・骨学・靭帯学、神経系のうち主要なものを対象として学びます。 ②人が生命を維持し活動していく欠かすことのできない循環系を学びます。 ③内臓の諸器官について位置と構造を学びます。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	解剖学オリエンテーション上肢No.1DVD	骨・関節・靭帯・筋・胸部の構造・呼吸に関わる筋			個人グループ
2	下肢1No.2DVD、下肢2No.3DVD	骨・関節・靭帯・筋・胸部の構造・呼吸に関わる筋			個人グループ
3	体幹1No.4DVD、体幹2No.5DVD	骨・関節・靭帯・筋・胸部の構造・呼吸に関わる筋			個人グループ
4	頭頸部1No.6DVD	頭頸部の支持と運動、顔面骨と頭蓋底			個人グループ
5	頭頸部2No.7DVD	顔面筋と頭皮、脳とその周辺、頭頸部の神経及び血管			個人グループ
6	口腔・眼・耳No.8DVD	鼻腔・咽頭とその周辺			個人グループ
7	胸部の臓器・生殖器No.9DVD	心臓・肺・男性生殖器・女性生殖器			個人グループ
8	腹部臓器No.10DVD	胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓・脾臓・腹部血管・泌尿器			個人グループ
9	解剖学実習講義1	実習に必要な知識の習得			個人グループ
10	解剖学実習講義2	実習に必要な知識の習得			個人グループ
11	解剖学実習1	標本館見学1			個人グループ
12	解剖学実習2	標本館見学2			個人グループ
13	解剖学実習3	見学実習1			個人グループ
14	解剖学実習4	見学実習2			個人グループ
15	解剖学実習5	見学実習3			個人グループ
期末試験	レポート提出	評価方法	レポート	100%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年学Ⅰ		前田 信吾			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
「老年学」は、高齢者に特有な疾患などを研究対象とする老年医学、実社会における諸問題を研究対象とする老年社会学、老化の機序などを研究対象とする基礎老化学を3つの柱とする学問になります。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①高齢者や長寿社会に関し学ぶ。 ②自然科学から人文社会までの幅広い分野を総合的に学ぶ。 ③自然科学から人文社会までの幅広い分野を学際的に学ぶことを目標とする。 ④ ⑤				知識・理解 創造的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	老年学と老年医学の基本事項	高齢者の定義・老年度 高齢者人口と平均寿命・健康寿命・老化の概念			個人
2	老化のメカニズムと制御	生物学として・代謝回転・酸化ストレス テロメア・テロメアーゼ・寿命遺伝子・老化制御			個人
3	老化のメカニズムと制御(2)	生物学として・代謝回転・酸化ストレス テロメア・テロメアーゼ・寿命遺伝子・老化制御			個人
4	老年の診方と評価(1)	高齢者の診断・高齢者の総合機能評価 (生活機能・QOL・自立度・認知機能・うつ・意欲・栄養)			個人
5	老年の診方と評価(2)	高齢者の診断・高齢者の総合機能評価 (生活機能・QOL・自立度・認知機能・うつ・意欲・栄養)			個人
6	高齢者に特有な症候(1)	老年症候群(1) (誤嚥・歩行・認知機能・せん妄・うつ・失禁・褥瘡・虚弱・脱水)			個人
7	高齢者に特有な症候(2)	老年症候群(2) (誤嚥・歩行・認知機能・せん妄・うつ・失禁・褥瘡・虚弱・脱水)			個人
8	高齢者に特有な症候(3)	臓器変化と老年疾患(1) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造血・感覚器)			個人
9	高齢者に特有な症候(4)	臓器変化と老年疾患(2) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造血・感覚器)			個人
10	高齢者に特有な症候(5)	臓器変化と老年疾患(3) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造血・感覚器)			個人
11	高齢者に特有な症候(6)	臓器変化と老年疾患(4) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造血・感覚器)			個人
12	高齢者疾患の臨床に必要な基礎知識	臨床検査・薬物療法・救急疾患対応			個人
13	高齢者の介護と在宅	医療・介護・福祉のサービス 施設ケア・在宅医療			個人
14	高齢者の緩和・終末期	緩和医療・終末期医療			個人
15	これまでの復習	復習とテストの説明			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	配布資料 (公社)全国柔道整復学校協会 監修 『生理学』 第4版 (医歯薬出版)				
【参考書】	特になし (公社)全国柔道整復学校協会 監修 『解剖学』 第2版 (医歯薬出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
スポーツ生理学		勝田 新一郎			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動生理学では、運動により生じる生体の生理的反応、すなわち、呼吸器系、循環器系、神経系、骨格筋系の生理学的変化に土江学習する。また、一回の運動で生じる各器官の生理的応答のみならず、トレーニング効果についても学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①スポーツ生理学の基本となる解剖学および生理学をしっかり復習し、理解する。 ②運動時の呼吸器系および循環器系の生理的応答について理解する。 ③身体各動作における骨格筋のはたらきと神経系による制御について理解する。 ④トレーニングによる効果について理解する。 ⑤				知識・理解 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生理学概論	生理学の概要、細胞・組織・器官の構成			個人
2	体液のはたらき	体液の概念(体液量、組成、移動)、生体調節系(神経性・体液性調節)、生体の内部環境と外部環境、恒常性			個人
3	呼吸	呼吸の概念、呼吸器の構造と機能、呼吸運動			個人
4	呼吸	換気力学、肺気量分画、ガス交換とガスの運搬			個人
5	呼吸	呼吸の調節機構、肺循環、異常呼吸			個人
6	循環	循環の概念、心臓と血管の構造と機能			個人
7	循環	心筋の電気現象、心電図			個人
8	循環	心収縮と心周期、血圧、心拍出量、末梢血管抵抗			個人
9	循環	各器官への血流の配分、微小循環、局所循環			個人
10	循環	短期および長期血圧調節機構			個人
11	体温調節	外層温度と核心温度、産熱と放熱散、体温調節、発熱と解熱			個人
12	末梢系神経	末梢神経系(自律神経系、体性神経系)			個人
13	中枢系神経	脊髄、脳幹、小脳の機能			個人
14	中枢系神経	大脳の機能局在と連合機能、脳波と睡眠、意識の保持、学習と記憶			個人
15	中枢系神経	本能行動と情動行動、大脳基底核、中枢と末梢の伝導路、脳脊髄液			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		スポーツ生理学および一年生で学習した解剖学、生理学の復習			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学		前田 信吾			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①整形外科の基礎知識を習得すること。 ②臨床現場で遭遇する症候について鑑別診断できること。 ③国家試験に合格できる知識をつけること。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	運動学の目的	運動とは 運動学の領域と目的			個人
2	運動の表し方	運動行動の概念 運動の表示方法・関節運動の種類			個人
3	身体運動と力学	身体運動に関与する力・仕事と力学的エネルギー 人体における単一機会構造・運動の法則			個人
4	運動器の構造と機能	骨の構造と機能 関節の構造と機能・骨格筋の構造と機能			個人
5	神経の構造と機能1	神経細胞・末梢神経 中枢神経・感覚と知覚			個人
6	神経の構造と機能2	神経細胞・末梢神経 中枢神経・感覚と知覚			個人
7	運動感覚	運動の感覚 運動の制御機構			個人
8	反射と随意運動	反射 随意運動			個人
9	四肢の運動	上肢帯の運動 下肢帯の運動			個人
10	体幹の運動	頸椎・胸椎・腰椎の運動 顔面および頭部の運動			個人
11	姿勢	姿勢の分類 重心・立位姿勢			個人
12	歩行	歩行周期・歩行の運動学的分析 歩行時の筋活動			個人
13	運動発達	神経組織の成熟 乳幼児期の運動発達			個人
14	運動学習				個人
15	これまでの復習				個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『運動学』 第3版 (医歯薬出版)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
一般臨床医学		山本 茂久			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復術は西洋医学とでは哲学が、診断作法、治療法などが異なるため、これを直接応用することはできない。しかし、西洋医学の考え方を学習することで、将来のより良い施術を実施するのに役立つことを理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①診断法を学ぶ。 ②判断する基礎力を習得する。 ③知識を理解し施術に役立てる。 ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	診察概論・医療面接		診察の意義、診察の進め方、医療面接の意義と方法		個人
2	視診		視診の意義と方法		個人
3	視診・打診・聴診		体各部位の視診 打診・聴診の意義と方法		個人
4	触診		触診の意義と方法		個人
5	生命徴候		体温、血圧、脈拍、呼吸		個人
6	感覚検査		感覚検査の意義		個人
7	反射検査		表在反射、深部腱反射、病的反射、クローヌス(間代) 自律神経反射		個人
8	代表的な臨床症状		発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、 関節痛、浮腫、肥満、やせ		個人
9	検査法		生命徴候の測定、生理機能検査、検体検査、運動機能検査		個人
10	呼吸器疾患 循環器疾患		総論、呼吸器各疾患 総論、循環器各疾患		個人
11	消化器疾患		総論、消化器各疾患		個人
12	代謝疾患 内分泌疾患		総論、代謝の各疾患(糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝) 総論、内分泌器各疾患		個人
13	血液・造血器疾患 腎尿路疾患		総論、尿検査、血球検査、血液凝固、臨床化学検査、内 分泌検査、免疫検査、腫瘍マーカー、感染症関連		個人
14	神経疾患		総論、神経系各疾患		個人
15	感染症 その他		総論、感染症、性病 リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症		個人
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『一般臨床医学』 第3版 (医歯薬出版)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 知識をより確実にする努力を常に心がける					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
病理学概論		前田 信吾			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
正常である解剖学・生理学・生化学からの変化により、異常な状態となった病気の原因説明、病気がどうして生じるかの説明、病気による体の変化がどのようにして起こるかの説明する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①病気を発生とそれに伴う体の変化を学習する。 ②各病気の内容を学習する。 ③国家試験を視野に病理学について学習する。 ④ ⑤				知識・理解 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	病理学の総論・疾病とは	研究の方法と種類・疾病と症候などの意義と分類			個人
2	全身の形態について(解剖学教科書)	正常な形態の復習(解剖学・組織学)			個人
3	全身の機能について(生理学教科書)	正常な機能の復習(生理学・生化学)			個人
4	細胞障害 退行性病変	細胞障害 萎縮・変性・代謝・壊死・死			個人
5	循環障害	充血・うっ血・虚血・出血 血栓症と梗塞			個人
6	血液について(解剖学・生理学教科書)	正常な血液と血液疾患			個人
7	正常な免疫系について	免疫機能の復習			個人
8	免疫異常・アレルギー	免疫・免疫不全・自己免疫疾患・アレルギー			個人
9	進行性病変	進行性病変の定義・肥大と過形成・再生と化生 創傷治癒・組織内異物の処理・移植			個人
10	炎症	炎症の一般と分類			個人
11	腫瘍(1)	腫瘍の概念			個人
12	腫瘍(2)	腫瘍の分類			個人
13	先天性異常	遺伝子・奇形			個人
14	病因	内因・外因			個人
15	これまでの復習	復習とテストの説明			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%		
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『病理学概論』 第3版 (医歯薬出版) 配布資料				
【参考書】	特になし (公社)全国柔道整復学校協会 監修 『生理学』 第4版 (医歯薬出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
外科学概論		山本 茂久			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
膨大な外科学の内容のうち、特に外科学の総論を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①損傷、炎症、腫瘍などの基本的な外科疾患について学習する。 ②基本的な外科疾患の診断法、治療法や出血について学習する。 ③国家試験を視野に外科学について学習する。 ④ ⑤				考え抜く力 問題解決力 知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	外科学とは、損傷	外科学の歴史・外科医の立場 損傷の分類・外傷の部位診断と重症度判定・交通外傷			個人
2	創傷・熱傷	創傷の治癒過程・創傷の処置と感染予防 熱傷の原因と分類・熱傷範囲の診断・深度			個人
3	炎症と外科感染症	炎症の定義・分類・外科感染症(丹毒・毛囊炎・腫瘍・蜂巣炎・ひょう疽 骨髄炎・結核・梅毒・真菌症・ガス壊疽)			個人
4	腫瘍(1)	概念・組織形成・成因(発癌)・分類 良性腫瘍の種類・悪性腫瘍の種類・腫瘍の発育形式			個人
5	腫瘍(2)	診断・治療・疫学			個人
6	ショック	循環血液量減少性ショック・心原性ショック 血液分布異常性ショック・ショックの緊急処置			個人
7	輸血、輸液	輸血の基礎知識・輸血の適応・輸血の実際 輸液の基礎知識・輸液の定義・目的・適応・高カロリー輸液			個人
8	消毒と滅菌	主な消毒薬と特長・皮膚の消毒 器械・器材・環境の消毒・滅菌			個人
9	手術	手術の分類 皮膚切開法・止血術・結紮縫合法・穿刺術			個人
10	麻酔(1)	概要・歴史・全身麻酔法・全身麻酔の導入・全身麻酔の術中管理・全身麻酔の合併症			個人
11	麻酔(2)	局所麻酔法(局所麻酔薬・表面麻酔・浸潤麻酔・伝達麻酔)			個人
12	移植と免疫	自家移植・同系移植・同種移植・異種移植 各種代表的臓器移植(腎・肝・心)			個人
13	出血と止血(1)	出血の定義・出血の種類・止血の仕組み			個人
14	出血と止血(2)	外出血・血尿・内出血・止血法			個人
15	心肺蘇生法	心肺蘇生法の実際・AED(自動体外式除細動器)・ 救急蘇生法の連携			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『外科学概論』 改訂第4版 (医歯薬出版)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
リハビリテーション概論		田邊 素子			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
リハビリテーションにおける対象疾患や障害像、特に運動器系疾患を中心に学び、評価・治療アプローチの概要を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①リハビリテーションの概念、障害について理解する。 ②リハビリテーションの障害を理解するために基礎となる機能解剖や運動学を理解する。 ③障害像を把握するための評価項目について学ぶ。 ④代表的な疾患について、リハビリテーションの評価から治療の実際を理解する。 ⑤リハビリテーションに関わる制度および職種を知る。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの概念と歴史的な経緯を知る			個人ワーク
2	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の概要を知る。障害とは、障害構造、ICFについて学ぶ			個人ワーク
3	リハビリテーションの基礎医学(1)	関節の運動、上下肢の各関節の機能解剖、機能障害につちいて学ぶ			個人ワーク
4	リハビリテーションの基礎医学(2)	障害に対するリハビリテーションの治療項目について学ぶ			個人ワーク
5	リハビリテーションにおける評価(1)	リハビリテーションで使用される評価項目について学ぶ			個人ワーク
6	リハビリテーションにおける評価(2)	運動器系疾患の医療画像について学ぶ			個人ワーク
7	リハビリテーションにおける治療手段(1)	運動療法、物理療法の具体的方法について学ぶ			個人ワーク
8	リハビリテーションにおける治療手段(2)	作業療法、言語聴覚療法の概要を学ぶ			個人ワーク
9	神経系障害のリハビリテーションの実際(1)	脳卒中のリハビリテーションについて学ぶ			個人ワーク
10	神経系障害のリハビリテーションの実際(2)	脊損、認知症のリハビリテーションについて学ぶ			個人ワーク
11	運動器系障害のリハビリテーションの実際(1)	関節リウマチ・変形性膝関節症・肩関節周囲炎のリハビリテーションについて学ぶ			個人ワーク
12	運動器系障害のリハビリテーションの実際(2)	骨折、頸肩腕障害、腰痛、スポーツ障害のリハビリテーションについて学ぶ			個人ワーク
13	内部障害のリハビリテーションの実際	心疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションについて学ぶ			個人ワーク
14	小児疾患のリハビリテーションの実際	脳性麻痺、二分脊椎などのリハビリテーションについて学ぶ			個人ワーク
15	リハビリテーションの関連領域 リハビリテーションと保健医療福祉の関連	リハビリテーションに関わる多職種連携について学ぶ、介護保険制度を学ぶ			個人ワーク
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『リハビリテーション医学』 改訂第4版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業前に該当箇所のテキストを通読する(30分程度)			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復術の適応(1/2)		山本 茂久			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師が業務を行なうにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復術を学ぶ。 ②柔道整復術が適応する外傷、適応しない疾患について学ぶ。 ③各外傷や疾患に対し適応のボーダーラインを学ぶ。 ④ ⑤				情報活用能力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	柔道整復術の適応(総論)1	柔道の起源と歴史			個人
2	柔道整復術の適応(総論)2	柔道整復師の起源と歴史			個人
3	柔道整復術の適応(総論)3	柔道整復術の起源と歴史			個人
4	柔道整復術の適応(各論)1	頸部・胸部の臨床徒手検査法			個人
5	柔道整復術の適応(各論)2	頸部・胸部の臨床徒手検査法			個人
6	柔道整復術の適応(各論)3	肩関節・上腕の臨床徒手検査法			個人
7	柔道整復術の適応(各論)4	肘関節・前腕の臨床徒手検査法			個人
8	柔道整復術の適応(各論)5	肘関節・前腕の臨床徒手検査法			個人
9	柔道整復術の適応(各論)6	手関節・手部の臨床徒手検査法			個人
10	柔道整復術の適応(各論)7	手関節・手部の臨床徒手検査法			個人
11	柔道整復術の適応(各論)8	腰部の臨床徒手検査法			個人
12	柔道整復術の適応(各論)9	腰部の臨床徒手検査法			個人
13	柔道整復術の適応(各論)10	股関節・大腿の臨床徒手検査法			個人
14	柔道整復術の適応(各論)11	膝関節・下腿の臨床徒手検査法			個人
15	柔道整復術の適応(各論)12	足関節・足部の臨床徒手検査法			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『医療の中の柔道整復』(南江堂) (公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』改訂第6版(南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、柔道整復学の基礎知識			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復術の適応(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師が業務を行なうにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復術について習得する。 ②柔道整復術が適応する外傷、適応しない疾患について学ぶ。 ③各外傷や疾患に対し適応のボーダーラインを学ぶ。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	柔道整復術の適否	適応判断の必要性、適応の判断、非適応が疑われる症状と所見			ペア・グループ
2	損傷に類似した症状を示す疾患	内臓疾患の投影を疑う疼痛、腰痛を伴う疾患			ペア・グループ
3	損傷に類似した症状を示す疾患	化膿性の炎症、軟部組織の圧迫損傷			ペア・グループ
4	血流障害を伴う損傷 末梢神経損傷を伴う損傷	血流障害・末梢神経損傷が疑われる場合の判断と対応			ペア・グループ
5	末梢神経損傷を伴う損傷	骨折、脱臼、骨折脱臼を伴わない損傷、外固定に起因する末梢神経損傷			ペア・グループ
6	脱臼骨折	脱臼骨折が疑われる場合の判断と対応			ペア・グループ
7	外出血を伴う損傷	外出血がある場合の判断と対応			ペア・グループ
8	病的骨折及び脱臼	病的骨折および脱臼が疑われる場合の判断と対応			ペア・グループ
9	意識障害を伴う損傷	意識障害がみられる場合の判断と対応			ペア・グループ
10	脊髄症状のある損傷	脊髄障害がみられる場合の判断と対応			ペア・グループ
11	呼吸運動障害を伴う損傷	異常呼吸がみられる場合の判断と対応			ペア・グループ
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷 高エネルギー外傷	内臓損傷が疑われる場合の判断と対応、 高エネルギー外傷患者の判断と対応			ペア・グループ
13	医用画像の理解	X線の概要と理解			ペア・グループ
14	医用画像の理解	磁気共鳴検査、超音波画像装置の概要と理解			ペア・グループ
15	総まとめ				ペア・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	80%	受講態度
			受講態度	20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『施術の適応と医用画像の理解』(南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、柔道整復学の基礎知識					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道Ⅱ		長坂 愛			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	15(30)	実習	1
【授業の概要・目的】					
講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修行は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道姿勢を学ぶ。 ②受身、組み手を学ぶ。 ③寝技・立技を修得する。 ④投の形を修得する。 ⑤				前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	受身 1		後方・前方・側方・前方回転受身を理解する。		ペア
2	受身 2		後方・前方・側方・前方回転受身を理解する。		ペア
3	寝技 1		正しい寝技を修得する。		ペア
4	寝技 2		正しい寝技を修得する。		ペア
5	立技 1		正しい立技を修得する。		ペア
6	立技 2		正しい立技を修得する。		ペア
7	立技 3		正しい立技を修得する。		ペア
8	投の形 1		手技 浮落を修得する。		ペア
9	投の形 2		手技 背負投を修得する。		ペア
10	投の形 3		手技 肩車を修得する。		ペア
11	投の形 4		腰技 浮腰を修得する。		ペア
12	投の形 5		腰技 払腰を修得する。		ペア
13	投の形 6		腰技 釣込腰を修得する。		ペア
14	実技試験				ペア
15	総復習		礼法、受身、投技、寝技、投の形を確認する。		ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 90% 受講態度 10%	
【教科書】		特になし			
【参考書】		特になし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。					
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
公衆衛生学		前田 信吾			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】本講義は、すべてPowerPointを使用して行う。毎回、講義資料2を配布し、使用する。毎回、講義後に小テストを配布し、次回講義					
【講義のねらい】公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。さらに、人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康にどのような影響があるのか、また人間の健康を保持増進するために社会や環境はどうあるべきかについて学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①地域の公衆衛生活動の推進者となる柔道整復師の役割を理解する。 ②柔道整復師の役割を理解し、それについて述べることができる。 ③正確な知識と医療従事者としての真摯な態度をもつことができる。 ④適切な保健医療活動を実践できる能力をもつことができる。 ⑤医療人としての対処方法をおこなうことができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	1 衛生学・公衆衛生学の概念 (オリエンテーション等も含む)	○衛生学の目的を説明できる。事前学習:Syllabusを読み、健康の定義とはなにかについて調べておくこと。			個人
2	2 健康の保持増進と疾病予防	○健康の概念と疾病予防について説明できる。事前学習:一次予防・二次予防・三次予防とはなにかについて調べておくこと。			個人
3	3 感染症対策(1)	○感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。事前学習:感染症成立の条件とはなにかについて調べておくこと。			個人
4	3 感染症対策(2)	○感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。事前学習:感染症法とはなにかについて調べておくこと。			個人
5	3 感染症対策(3)	○感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。事前学習:HIVとはなにかについて調べておくこと。			個人
6	4 消毒 4-2 健康教育	4 消毒○消毒方法について説明できる。事前学習:理学的消毒法とはなにかについて調べておくこと。 4-2 健康教育○タバコの害について説明することができる。			個人
7	5 学校保健	○集団レベルの疾病予防と健康管理(学校保健)を説明できる。事前学習:学校保健の対象とはなにかについて調べておくこと。			個人
8	6 産業保健	○集団レベルの疾病予防と健康管理(産業保健)を説明できる。事前学習:働く人々の健康とはなにかについて調べておくこと。			個人
9	7 母子保健	○母子保健統計と主な母子保健施策について説明できる。事前学習:母子保健法とはなにかについて調べておくこと。			個人
10	8 環境衛生(環境保健)	○環境による健康への影響、環境基準と環境汚染について説明できる。事前学習:地球規模の環境問題とはなにかについて調べておくこと。			個人
11	9 生活環境・食品衛生活動	○国民の栄養と食品の安全についての問題点と制度を概説できる。事前学習:水道水質基準とはなにかについて調べておくこと。			個人
12	10 成人・高齢者保健	○成人、高齢者、障害者のおかれた社会環境を説明できる。事前学習:がん対策と高齢化率とはなにかについて調べておくこと。			個人
13	11 精神保健	○精神保健福祉活動の現状と動向を説明できる。事前学習:精神障害とはなにかについて調べておくこと。			個人
14	12 地域保健と国際保健 13 衛生行政と保健医療の制度	12 ○集団レベルの疾病予防と健康管理を説明できる。○国際協力の仕組みについて概説できる。13 ○わが国の保健・医療制度を説明できる。事前学習:国際協力と地域保健法とはなにかについて調べておくこと。			個人
15	14 医療の倫理と安全の確保 15 疫学	14 医療の倫理と安全の確保○安全の確保について説明できる。15 疫学○主な保健医療統計・疫学について説明できる。事前学習:医療事故と有病率とはなにかについて調べておくこと。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『衛生学・公衆衛生学』改訂第6版(南江堂)				
【参考書】	図説 国民衛生の動向 2020/2021 厚生労働統計協会				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】事後学習:第1回講義小テストから第15回講義小テストまでを解答できるようにしておくこと。					
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
職業倫理		福 安喜			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
近年問題となっている柔道整復師による不正請求を根絶するために、不正請求の概要や療養費請求の仕組みについて学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①なぜ職業を行ううえで倫理観が必要なのか学習する。 ②広義において職業倫理が必要であることを意識する。 ③柔道整復師が業務を行う上で必要な職業倫理について学習する。 ④ ⑤				問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ガイダンス		講義の進め方、評価方法、レポートについての説明。		個人
2	職業倫理とは		近年、職業倫理が重要視されるようになった背景について学習する。		個人
3	広義の職業倫理		様々な職業が倫理に反する行為を行った場合、自分や社会にどのような不利益が生じるか考える。社会の一員として、職業倫理観の重要性を意識する。		個人
4	柔道整復師の業務		柔道整復師が行える業務について、接骨院、デイサービス、病院などのケースごとに学ぶ。		個人
5	保険請求		医療保険、償還払い、受領委任払いについて学習する。日本全体の医療費推移について学習する。		個人
6	柔道整復師の保険請求②		最近の柔道整復師の保険請求額や、全国の接骨院数の推移、国家試験合格者の推移について学習する。		個人
7	柔道整復師を取り巻く社会環境		現在、柔道整復師を取り巻く社会環境や、不正請求の現状について学習する。		個人
8	今後の柔道整復師としての在り方①		接骨院で正しく柔道整復師として活躍する先輩の例を紹介し、進路について意識付ける。		個人
9	今後の柔道整復師としての在り方②		デイサービスで機能訓練指導員として活躍する先輩の例を紹介し、進路について意識付ける。		個人
10	今後の柔道整復師としての在り方③		病院で柔道整復師として活躍する先輩の例を紹介し、進路について意識付ける。		個人
11	今後の柔道整復師としての在り方④		卒業後、鍼灸師の資格を取得し活躍する先輩の例を紹介し、進路について意識付ける。		個人
12	不正請求の根絶①		過去の不正請求の事例を元に、グループでディスカッションを行う。		グループ
13	不正請求の根絶②		過去の不正請求の事例を元に、グループでディスカッションを行う。		グループ
14	不正請求の根絶③		過去の不正請求の事例を元に、グループでディスカッションを行う。		グループ
15	不正請求の根絶と今後の柔道整復師の在り方		柔道整復師を取り巻く厳しい社会状況と、活躍する先輩の例を元に、今後どのように進むべきか、各個人で発表する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』(医歯薬出版)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会保障制度		菅原 好秀			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディアスポーツ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
疫病、負傷、分娩、死亡、老齢その他困窮の原因に対して、保険あるいは公の負担で経済保障などを行うことで公衆衛生および社会福祉の向上を図り、国民が文化生活を営めるような状況を踏まえて、柔道整復師として必要な社会保障制度を理解することを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会保障制度における貧困の多様性を理解し、情報を活用して問題点を抽出することができる。 ②生活保護の概要を理解し、柔道整復師として専門職として活用することができる。 ③公的保険制度の概要を学び、柔道整復師として創造的に活用することができる。 ④保険医療制度の概要を学び、柔道整復師として論理的に活用することができる。 ⑤社会保障制度の現状と課題を学び、柔道整復師として活用することができる。				情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 創造的思考力 論理的思考力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	現代社会における社会保障制度について	社会保障制度を取り巻く環境の変化について学びます。			個人
2	社会保障の概念	わが国の社会保障の概念と範囲について学びます。			個人
3	社会保障の理念について	自由権の確立と社会権について学びます。			個人
4	社会保障の役割と意義について	自助・共助・公助・互助について学びます。			個人
5	社会保障の対象について	ライフサイクルと社会保障について学びます。			個人
6	社会保障制度の発展について	救貧施策と社会保険について学びます。			個人
7	社会保障の財源と費用について	社会保障に要する費用と財源の関係について学びます。			個人
8	社会保険と社会扶助について	社会保険の概念と範囲について学びます。			個人
9	公的保険と民間保険について	社会保障と企業保障・個人保障について学びます。			個人
10	年金保険制度について	年金制度の意義と内容について学びます。			個人
11	医療保障制度について	医療保険制度の概要と仕組みについて学びます。			個人
12	介護保険制度について	介護保険制度の創設と意義について学びます。			個人
13	労働保険制度について	労働者災害補償保険制度の内容と課題について学びます。			個人
14	社会福祉制度について	生活保護制度の意義と内容について学びます。			個人
15	社会手当制度について	社会手当の意義と児童手当について学びます。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50%	受講態度 50%	
【教科書】	『社会福祉学習双書』編集委員会編『社会福祉学習双書 社会保障論2023』全国社会福祉協議会(公社)全国柔道整復学校協会 監修『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』医歯薬出版株式会社				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		講義のキーワードを中心に教科書の該当部分を読み、疑問点を調べておくこと。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

3. 専門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論Ⅱ(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		福 安喜			担任
		整骨院30年勤務、整形外科10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師として必要な解剖学、柔道整復理論総論の知識を復習し、過去問の解説と分析をする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師として必要な解剖学の知識を復習する。 ②柔道整復理論総論国家試験問題の出題傾向と対策を行なう。 ③国家試験問題への対応力、解き方を学習する。 ④ ⑤				問題解決力 知識・理解 情報活用能力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	国家試験に関して	出題傾向の分析と解答方法について			個人
2	柔道整復理論	構造系①			グループ
3	柔道整復理論	構造系②			グループ
4	柔道整復理論	構造系③			グループ
5	柔道整復理論	骨格筋系①			グループ
6	柔道整復理論	骨格筋系②			グループ
7	柔道整復理論	骨格筋系③			グループ
8	柔道整復理論	骨格筋系④			グループ
9	柔道整復理論	骨格系①			グループ
10	柔道整復理論	骨格系②			グループ
11	柔道整復理論	骨格系③			グループ
12	柔道整復理論	骨格系④			グループ
13	柔道整復理論	末梢神経系①			グループ
14	柔道整復理論	末梢神経系②			グループ
15	柔道整復理論	末梢神経系③			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、生理学などの基礎医学知識			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論Ⅱ(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		田代 洋司			担任
		整形外科(柔道整復師)12年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師として必要な解剖学、柔道整復理論総論の知識を復習し、過去問の解説と分析をする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師として必要な解剖学の知識を復習する。 ②柔道整復理論総論国家試験問題の出題傾向と対策を行なう。 ③国家試験問題への対応力、解き方を学習する。 ④ ⑤				問題解決力 知識・理解 情報活用能力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	復習柔道整復理論	構造系・筋骨格系・末梢神経			グループ
2	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 骨折①			グループ
3	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 骨折②			グループ
4	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 骨折③			グループ
5	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 骨折④			グループ
6	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 脱臼①			グループ
7	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 脱臼②			グループ
8	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 脱臼③			グループ
9	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 軟部組織損傷①			グループ
10	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 軟部組織損傷②			グループ
11	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 軟部組織損傷③			グループ
12	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 治療法①			グループ
13	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 治療法②			グループ
14	柔道整復理論総論	1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。総論 治療法③			グループ
15	柔道整復理論総論	柔道整復理論総論の総復習、小テスト			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90%	受講態度 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、生理学などの基礎医学知識			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅱ(脱臼)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		田代 洋司			担任
		整形外科(柔道整復師)12年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③脱臼について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	胸鎖関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
2	肩鎖関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
3	肩関節前方脱臼 その①	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
4	肩関節前方脱臼 その②	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
5	反復性肩関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
6	その他の肩関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
7	肘関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
8	橈骨頭単独脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
9	肘内障	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
10	手関節部の脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
11	月状骨脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
12	CM関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
13	MP関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
14	PIP・DIP関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
15	小テスト	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅱ(脱臼)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		田代 洋司			担任
		整形外科(柔道整復師)12年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③脱臼について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	股関節脱臼 その①		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
2	股関節脱臼 その②		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
3	股関節脱臼 その③③		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
4	膝蓋骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
5	膝関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
6	足部の脱臼 その①		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
7	足部の脱臼 その②		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
8	小テスト		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
9	顎関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
10	頸椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
11	胸・腰椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
12	脱臼まとめ その①		総復習とまとめ		個人
13	脱臼まとめ その②		総復習とまとめ		個人
14	脱臼まとめ その③		総復習とまとめ		個人
15	小テスト		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】		(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)			
【参考書】		特になし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅲ(骨折上肢)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		高橋 洋一			担任
		接骨院(柔道整復師)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③骨折上肢について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	鎖骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
2	鎖骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
3	肩甲骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
4	肩甲骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
5	上腕骨近位端部骨折 (骨頭、大結節、小結節、解剖頸)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
6	上腕骨近位端部骨折 (骨頭、大結節、小結節、解剖頸)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
7	上腕骨外科頸骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
8	上腕骨外科頸骨折、骨端線離開		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
9	上腕骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
10	上腕骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
11	上腕骨顆上骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
12	上腕骨顆上骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
13	上腕骨外顆骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
14	上腕骨内側上顆骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
15	上腕部骨折まとめ		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅲ(骨折上肢)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		高橋 洋一			担任
		接骨院(柔道整復師)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③骨折上肢について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	橈骨近位端部骨折 (橈骨頭、橈骨頸部)	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
2	肘頭骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
3	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
4	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
5	前腕両骨骨幹部骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
6	橈骨遠位端部骨折 (コーレス、スミス)	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
7	橈骨遠位端部骨折 (コーレス、スミス)	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
8	橈骨遠位端部骨折 (ショーファー、バートン)	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
9	舟状骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
10	月状骨、その他手根骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
11	中手骨骨折、ベネット骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
12	基節骨、中節骨、末節骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
13	マレットフィンガー	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
14	マレットフィンガー	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。			個人
15	前腕～手指骨折まとめ	総まとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		成田 昌健			担任
		整形外科(柔道整復師)7年勤務、接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
体幹骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての教科書に沿って学び理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①体幹骨折と下肢の骨折について学び各論について理解して対処法・整復法・固定法ができるようにする。 ②体幹骨折と下肢の骨折について学び各論について理解して鑑別診断ができるようにする。 ③体幹骨折と下肢の骨折について学び国家試験問題への対応ができるよう知識を深める。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	頭部・顔面部骨折	頭蓋骨について学ぶ。			個人
2	頭部・顔面部骨折	顔面頭蓋骨折について学ぶ。			個人
3	頸椎の骨折	上位頸椎骨折について学ぶ。			個人
4	頸椎の骨折	中下位頸椎骨折について学ぶ。			個人
5	胸椎の骨折	上部胸椎棘突起骨折について学ぶ。			個人
6	胸椎の骨折	胸椎の椎体骨折について学ぶ。			個人
7	腰椎の骨折	下位腰椎椎体圧迫骨折について学ぶ。			個人
8	腰椎の骨折	チャンス骨折について学ぶ。			個人
9	腰椎の骨折	腰椎椎体破裂骨折について学ぶ。			個人
10	腰椎の骨折	腰椎肋骨突起骨折について学ぶ。			個人
11	胸部の骨折	肋骨骨折について学ぶ。			個人
12	胸部の骨折	肋軟骨骨折について学ぶ。			個人
13	胸部の骨折	胸骨骨折について学ぶ。			個人
14	骨盤の骨折	骨盤単独骨折、骨盤輪骨折について学ぶ。			個人
15	総復習	頭部・体幹の骨折の復習			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	80% 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		教科書をよく読むこと			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		成田 昌健			担任
		整形外科(柔道整復師)7年勤務、接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
体幹骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての教科書に沿って学び理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①体幹骨折と下肢の骨折について学び各論について理解して対処法・整復法・固定法ができるようにする。 ②体幹骨折と下肢の骨折について学び各論について理解して鑑別診断ができるようにする。 ③体幹骨折と下肢の骨折について学び国家試験問題への対応ができるよう知識を深める。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	骨盤の骨折		骨盤骨単独骨折、骨盤輪骨折について学ぶ。		個人
2	大腿骨骨折		大腿骨近位端部骨折について学ぶ。		個人
3	大腿骨骨折		大腿骨骨幹部骨折について学ぶ。		個人
4	大腿骨骨折		大腿骨遠位端骨折について学ぶ。		個人
5	膝蓋骨骨折		膝蓋骨骨折について学ぶ。		個人
6	下腿骨骨折		下腿骨近位端骨折について学ぶ。		個人
7	下腿骨骨折		下腿骨骨幹部骨折について学ぶ。		個人
8	下腿骨骨折		下腿骨骨幹部骨折について学ぶ。		個人
9	下腿骨骨折		下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折について学ぶ。		個人
10	下腿骨骨折		下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折について学ぶ。		個人
11	足・足趾骨折		足根骨骨折について学ぶ。		個人
12	足・足趾骨折		足根骨骨折について学ぶ。		個人
13	足・足趾骨折		中足骨骨折について学ぶ。		個人
14	足・足趾骨折		趾骨骨折について学ぶ。		個人
15	総復習		下肢の骨折の復習		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書をよく読むこと					
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅱ(脱臼)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	肩鎖関節脱臼①		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成		ペア・グループ
2	肩鎖関節脱臼②		固定法(テーピング)、後療法のプログラム作成		ペア・グループ
3	肩関節脱臼①		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成		ペア・グループ
4	肩関節脱臼②		固定法 後療法のプログラム作成		ペア・グループ
5	肘関節脱臼①		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成		ペア・グループ
6	肘関節脱臼② 肘内障		固定法、後療法のプログラム作成		ペア・グループ
7	手指PIP関節脱臼①		症状、転位の確認、整復操作		ペア・グループ
8	手指PIP関節脱臼②		症状・転位の確認、整復法・固定法		ペア・グループ
9	その他上肢の脱臼① (胸鎖、遠位橈尺、手根関節)		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成		ペア・グループ
10	その他上肢の脱臼② (手指MP、CM、DIP)		症状・転位の確認、整復法・固定法		ペア・グループ
11	顎関節・股関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成		ペア・グループ
12	膝蓋骨・膝関節・距腿関節脱臼		症状・転位の確認、整復法・固定法		ペア・グループ
13	実技試験				ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験				ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅱ(脱臼)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	膝関節、膝蓋骨脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定		ペア・グループ
2	足関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定		ペア・グループ
3	足部、足指脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定		ペア・グループ
4	体幹、下肢脱臼まとめ		固定法 後療法のプログラム作成		ペア・グループ
5	肩脱臼まとめ (肩鎖、肩関節)		整復操作、固定の復習		ペア・グループ
6	肘脱臼まとめ (肘関節、肘内障)		整復操作、固定の復習		ペア・グループ
7	手指脱臼まとめ (手関節、IP関節)		整復操作、固定の復習		ペア・グループ
8	肩鎖関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認		ペア・グループ
9	肩関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認		ペア・グループ
10	肘関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認		ペア・グループ
11	肘内障復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認		ペア・グループ
12	手指PIP関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認		ペア・グループ
13	実技試験		実技試験		ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験				ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅲ(1/2)		刈屋 遵			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
上肢骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	鎖骨骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
2	上腕骨外科頸骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
3	上腕骨骨幹部骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
4	上腕骨遠位端部骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
5	橈骨近位端部骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
6	肘頭骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
7	前腕両骨骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
8	橈骨遠位端部骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
9	コーレス骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
10	手根骨骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
11	第5中手骨骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
12	手指骨骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成、固定法			グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試験				個人
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅲ(2/2)		刈屋 遵			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
上肢骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	前腕両骨骨幹部骨折	固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成 症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			ペア
2	橈骨遠位端骨折 (ショーファー、 Barton)	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			ペア
3	橈骨遠位端骨折 (ショーファー、 Barton)	固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			ペア
4	舟状骨骨折、月状骨、その他手根骨骨折	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			ペア
5	舟状骨骨折、月状骨、その他手根骨骨折	固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			ペア
6	肩骨折まとめ (鎖骨、上腕骨近位)	整復操作、固定の復習			ペア
7	橈骨遠位端骨折まとめ (コーレス、スミス、 Barton)	整復操作、固定の復習			ペア
8	手指骨折まとめ (中手骨、基節骨、末節骨)	整復操作、固定の復習			ペア
9	鎖骨骨折復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			ペア
10	上腕骨外科頸+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			ペア
11	コーレス骨折+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			ペア
12	第5中手骨骨折復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			ペア
13	実技試験				ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験				ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定肢位を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。 ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	肋骨骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
2	肋骨骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
3	大腿骨骨幹部骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
4	大腿骨骨幹部骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
5	第5中足骨基部裂離骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
6	第5中足骨基部裂離骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
7	第1趾基節骨骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
8	第1趾基節骨骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
9	松葉づえ 松葉づえ		調節のしかた 接地部のつきかた。 平地の歩き方		ペア
10	肋骨骨折復習口頭試問対策 肋骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 肋骨骨折のキーポイントをまとめる。		ペア
11	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問対策 大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 大腿骨骨幹部骨折のキーポイントをまとめる		ペア
12	第5中足骨基部裂離骨折 第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 第5中足骨骨折のキーポイントをまとめる。		ペア
13	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策 第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 第1趾基節骨骨折のキーポイントをまとめる。		ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験 総復習		各グループで復習 各グループで復習		ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】		(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)			
【参考書】		特になし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 転位方向正しく理解し整復操作をする。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定肢位を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。 ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨		症状、転位の確認 整復操作		ペア
2	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
3	下腿骨幹部骨折		症状、転位の確認 整復操作		ペア
4	下腿骨幹部骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
5	果部骨折		症状、転位の確認 整復操作		ペア
6	果部骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
7	踵骨骨折		症状、転位の確認 整復操作		ペア
8	踵骨骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
9	松葉づえ		階段の昇りかた・降りかた 松葉づえで校舎内を実際に歩く。		ペア
10	膝蓋骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 膝蓋骨骨折のキーポイントをまとめる		ペア
11	下腿骨幹部骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 下腿骨幹部骨折のキーポイントをまとめる		ペア
12	果部骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 果部骨折のキーポイントをまとめる		ペア
13	踵骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 踵骨骨折のキーポイントをまとめる		ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験 総復習		各グループで復習		ペア
			各グループで復習		
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 転位方向正しく理解し整復操作をする。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年学Ⅱ		長坂 愛			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	前期	15(30)	実習	1
【授業の概要・目的】					
老年学の内容について学び、柔道整復師との関連と高齢者特有の外傷に対し、対応できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①老年学の要点を学ぶ。 ②高齢者特有の外傷や疾患を学ぶ。 ③高齢者に柔道整復術、外傷の治療を行うにあたり注意点や正しい行い方を学ぶ。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	老年学とは	加齢、老化の概念について学ぶ。			個人
2	高齢者の特徴	高齢者の身体的特徴と経時的変化について、若年者や小児と対比し学ぶ。			個人
3	廃用性症候群	筋萎縮、筋力低下について学ぶ。			個人
4	廃用性症候群	骨粗鬆症、骨萎縮について学ぶ。			個人
5	高齢者特有の外傷	骨粗鬆症、下肢筋萎縮由来の脊椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折の発生メカニズムを学ぶ。			個人
6	高齢者特有の外傷	骨粗鬆症、下肢筋萎縮由来の大腿骨頸部骨折、上腕骨外科頸骨折の発生メカニズムを学ぶ。			個人
7	各外傷の治療	脊椎圧迫骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。			個人
8	各外傷の治療	橈骨遠位端骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。			個人
9	各外傷の治療	大腿骨頸部骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。			個人
10	各外傷の治療	上腕骨外科頸骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。			個人
11	各外傷の治療	骨折以外に高齢者に多発しやすい外傷の治療に際しての注意点を学ぶ。			個人
12	整形外科での高齢者治療	整形外科で行われる薬物治療を組み合わせた高齢者の外傷治療について学ぶ。			個人
13	人口の高齢化への対応	近年の高齢者に対する治療の概念や人口傾向を学ぶ。			個人
14	実技試験				個人
15	老年学まとめ	総復習とまとめ			個人
期末試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	レポート	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・理論編』改訂第6版(南江堂) (公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復師と機能訓練指導』(南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、生理学などの基礎医学知識。高齢者4大骨折の柔道整復理論。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(1/2)		村瀬 広行			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	23(45)	講義	2
【授業の概要・目的】					
臨床現場で柔道整復師として必要な知識および技術を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①問診、視診、触診を身に付ける ②症例のキーワードから疾患を導き出す ③患者にあった治療、指導管理を考える ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル チームで働く力 考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1		施術所開設準備作業(衛生材料・物品管理)			ペア・グループ
2		施術所受付業・カルテ作成・管理			ペア・グループ
3		診察法・徒手検査法①			ペア・グループ
4		診察法・徒手検査法②			ペア・グループ
5		診察法・徒手検査法③			ペア・グループ
6		施術所内整備、包帯等清掃管理			ペア・グループ
7		診察法・徒手検査法④			ペア・グループ
8		診察法・徒手検査法⑤			ペア・グループ
9		診察法・徒手検査法⑥			ペア・グループ
10		物理療法機器の整備・操作法①			ペア・グループ
11		物理療法機器の整備・操作法②			ペア・グループ
12		診察法(身体計測、体力測定、バイタルチェック)			ペア・グループ
13		診察法(手技療法①)			ペア・グループ
14		診察法(手技療法②)			ペア・グループ
15		医療面接を各種申請書の取り扱い			ペア・グループ
期末試験	レポート	評価方法	レポート 受講態度	60% 20%	授業への貢献 20%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(2/2)		長坂 愛			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	23(45)	講義	2
【授業の概要・目的】					
臨床現場で柔道整復師として必要な知識および技術を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①問診、視診、触診を身に付ける ②症例のキーワードから疾患を導き出す ③患者にあった治療、指導管理を考える ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル チームで働く力 考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、 施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定補助、物理療法機器の操作、カル テ、レセプト、評価、アセスメント、各種健康保険証				グループ
2					グループ
3					グループ
4					グループ
5					グループ
6					グループ
7					グループ
8					グループ
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末 試験	レポート	評価方法	レポート 受講態度	60% 20%	授業への貢献 20%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	